

# 視点 論点

## 学びの本質を求めて

### ～コロナが気づかせてくれた オルタナティブな学び～

守安あゆみ（認定NPO法人コクレオの森）

#### ●教育の本質を問い直すきっかけ

新型コロナウイルスのまん延という困難によって、わたしたちは生活スタイルを大きく変えざるを得なくなりました。それはまたわたしたちの価値観を大きく揺さぶった出来事でもありました。教育という視点から見た人々の意識の変容について、記してみようと思います。

昨年、全国の学校が一斉休校になりました。子どもの学びが止まってしまったのです。この長い休校期間に、子どもたちは学校から配布されたプリント学習などをしていたようですが、それよりも「やったー！春休みがとて長くなった」と、遊んだり、やりたいことをして過ごしていたようです。これは裏返すと、学校が提供する学びは子どもたちにとって、自分たちのやりたいことではなかったということではないでしょうか。そもそも知識偏重の画一的な一斉教育は、一人ひとりの子どもたちの個性や能力をつぶし、枠にはめるやり方ですから、子どもが自分から進んで学ぼうとしないのは当然のことです。そして長い休みが終わって学校が再開した時、「そもそも学校ってなんだろう？」「学びってなんだろう？」という問いを持つ子どもや親が現れてきました。コロナによる一斉休校がそれまで気づけなかった教育の本質を問い直すきっかけとなったのです。

#### ●学びとは経験を通して身になること

箕面こどもの森学園中学部3年生のAくんは、そんなコロナ休校を経て転校してきた一人です。箕面こどもの森学園（以下、こどもの森）は、子どもの個性を尊重し、子どもが主体的に学び、民主的に生きることを大切にしたい小中学校です。Aくん



科学実験（中学生）…科学実験が好きな人たちが選択して学んでいます。

は一斉休校の時に、お金の稼ぎ方について調べたり、実際にメルカリで不用品を売って収入を得た経験から、「学校で教えてもらわなくても自分で学べる」と感じたそうです。休校明けに授業が退屈になり、「学校ってなんのためにあるんだろう？」と考えるようになりました。それまでは高校行って、大学行って、就職して、と普通に思っていたのが、ある時ネットで学生社会起業家に会い、「学習は家でできる。ネットでできる」と気づいたと言います。Aくんにとって学校はコミュニケーションの場。友だちと話をすることで考えが深まったり、気づきを得られる場所だそうです。そして自分にあった学校を探して、こどもの森を見つけました。Aくんは、「学びとは、経験を通してそれが自分の身になること」と語ってくれました。

#### ●内側からあふれてくる意欲を大切に

もう一人、この春中学部を卒業したBくんもまた、自分軸をしっかり持った人でした。彼は在籍中、コロナで学校がオンライン学習になり、自由な時間が増えた時も（全国が一斉休校だった時、こどもの森はオンライン学習に切り替えたので休校しませんでした）多肉植物の栽培、自宅の庭の用水路作り、筋トレ、読書、電子工作などなど、やりたいことがいっぱいあって時間が足りないと言ひ、コロナ禍でいろんなことが制限された中でも、周りの環境に左右されることなく、自分のやりたいことを主体的に学んでいました。

学びとは、本来自分の内側からあふれてくる意欲や好奇心が元になって始まるものです。国や先生や親が決めた内容をただ丸暗記して、どれだけ覚えたか測ることはありません。子どもにまったく関心のない事柄を一方向的に学習させることも、教育の本質から大きくずれています。なぜなら、教育の本質は人を幸せにすることだからです。

不登校は子ども個人の問題ではなく、学校の教育方法がその子に合っていないことで起こる現象です。人はみんな一人ひとり個性を持った違う存在なのに、同じやり方で同じことを一斉に教え込もうとすること自体が無理のあることなのです。それなのに、不登校であることで親も子どもも自信を失い、自分を責めてしまっています。違

もりやす・あゆみ NPO法人コクレオの森副代表理事。認定子育てHATマイスター。仲間とともにオルタナティブスクールの運営をしつつ、親と子の自己肯定感を育むための活動にも力を入れている。共著『こんな学校あったらいいな～小さな学校の大きな挑戦』（築地書館）、『みんなでつくるミライの学校～21世紀の学びのカタチ』（築地書館）



体育祭…子どもたちが企画運営する体育祭です。

うのです。ただ、今の学校のやり方が自分に合っていないだけなのですから。

#### ●気づいた人から自分にできる一歩を

「本当の学びってなんだろう」と考え始め、本質的な教育を選ぼうとする家族が今、増えています。仕事がリモートワークでできるようになったため、引っ越しをして、わが子をオルタナティブスクールに入学させた人もいます。コロナによりオンライン化が進み、生活の場と仕事の場が離れていても問題なく暮らせる時代がやってきました。また、オルタナティブな学びの場を作ろうと立ち上がる人たちも増えてきました。今はまだとても数が少ないですが、今後は子どもの個性を尊重した、民主的でサステイナブルな教育を行う学びの場がどんどん増えていくと思われます。

コロナはわたしたちにつらく厳しい現実を体験させましたが、同時に、よりよい未来を創っていくための意識の変容をもたらしてくれました。教育は未来を創っていく要です。気づいた人から自分にできる一歩を踏み出していくことが、社会を変えていくのだと信じています。



にわとり飼育…子どもたちがにわとりを飼いたいと提案をして、全校集会で何度も話し合いをした結果、2羽のにわとりが学校にやってきました。